

Title	後期授業概要
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2006, 15, p. 19-19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/8709
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

後期授業概要

1	2	3	4	2
10月29日	11月5日	11月19日	11月26日	12月3日
玉地 雅浩	西川 勝	武田 開土	武田 朋士	紀平 知樹 樫本 直樹
(コーディネーター 濱田 唯)	(コーディネーター 樫本 直樹)	(コーディネーター 濱田 唯)	(コーディネーター 濱田 唯)	武田 朋士 濱田 唯
身体①「我々は物にどのように出 会っているか?」	身体②「老いる」を哲学する	笑い①「おもしろさを人に伝える 契、②「何がおもしろさをつくるの ことができるか」 かリ	笑、② 「何がおもしろさをつくるのか」	「全体のふり返り」
講師の玉地さんは身体の動きにつ	高西川さん自身の認知の人にかか	高西川さん自身の認知の人にかか 「笑い」の哲学的が後、対話という形 「笑い」をテーマにした授業の2回 前期の最後にとったアンケート、後期	「笑い」をテーマにした授業の2回	前期の最後にとったアンケート、後期
いて授業をしました。壁を前にして、女とかに立れまれ、もの「こ	問にして わる介護の経験を紹介してもらっ で行うに5世でにす 大きに14後 大きに14後	いて授業をしました。壁を前にしてもる介護の経験を紹介してもらっ「空行さにをを2両は方ちって行った。そ「B。前回最後に出してもらった、漫「の授業の慰むで、投業4での対抗わか」 巻フポでおすまだ。キャ・ 舌で ロート象 「妻こを」ないノンニジャン [6・1回日	目。前回最後に出してもらった、瓊 の殺薬の慰衷で、殺薬内での対語がかっそです・1 セペー・セン・レン・アンタで国した。 たいちい 実得式を ・ルーン	の授業の慰想で、授業内での対話がかった。これ、正統に対していた。
によっているがったり、かり上にのって左右に揺れてみたり、片目で	た後、「もいる」がらコイングラのことについて話し合った。「老い」	によってもよっていたが、できまれている。ことでして、イン・Slottersのことできます。 A State DOA フルコトゥース・A State DOA フルコトゥース・A State DOA フルコトゥース・A State DOA フェイン・A State DOA THE A State DOA THE DOA THE A STATE DOA THE DOA THE A STATE DOA THE D	4 ひなちららが りんここのここのは 由、及び哲学者 (アリストテレス、	いった十分に深められていないとい
ハンドビデオをのぞきながら廊下を	のマイナス面(「成長しなくなる」	片付けてしまわれがちな「笑い」という	ベレクソン、ショーペンハウアーな	う意見が多く出されたことを受けて、
壁沿いに歩いたり。普段生活してい	「限界を感じる」「できなくなる」)	壁沿いに歩いたり。普段生活してい「限界を感じる」「できなくなる」) テーマを通じて、他人に伝わる言葉で話 ど)の「笑い」に関する理論とをま 1 年間の授業を振り返ってもらいなが	ど)の「笑い」に関する理論とをま	1年間の授業を振り返ってもらいなが
る教室を舞台に、ちょっと違う状況	やプラス面(「経験の積み重ね」「納	る教室を舞台に、ちょっと違う状況 やブラス面 (「経験の積み重ね」「納 し、他人の言葉を理解しようとする態度 とめたブリントを配布し、それを基 ら「対話」について考えてもらった。	とめたプリントを配布し、それを基	ら「対話」について考えてもらった。
の中で動いてみる、そのときの身	得していくこと」)等多くの発言が	の中で動いてみる、そのときの身 得していくこと」)等多くの発言が を身につけるということを目的として設 に、「おもしろさ」をつくっていた 授業の感想、不満をだしてもらい、そ	に、「おもしろさ」をつくっていた	授業の感想、不満をだしてもらい、そ
体感覚や動きの特徴について考える	出され、その後「成長」「成熟」な	体感覚や動きの特徴について考える 出され、その後「成長」「成熟」な 定していた。そこで、最初に、漫才を見 のは何かについて皆で話しあった。 こから、対話が「明練する」とはどう	のは何かについて皆で話しあった。	こから、対話が「脱線する」とはどう
というものでした。生徒はぎこちな ビをキーワードに「老い」	どをキーワードに「老い」の意味	まぎこちな どをキーワードに「老い」の意味 るという具体が対体験と、それを抽象的 哲学者の理論を参考にしながらも、 いうことか、対話の目的は何なのか、	哲学者の理論を参考にしながらも、	いうことか、対話の目的は何なのか、
く体をうごかしてみながら、その	についてみんなで考えた。	に言類に起こすという体験との両方をこ	に言類に起てすという体験との両方をこ 前回の体験で自分が感じたことから 対話を成立させるためにどのような条	対話を成立させるためにどのような条
時々で気がついたことを言葉にして	こちら側から「ここからが老いで	時々で気がついたことを言葉にして こちら側から「ここからが老いで の授業内に行うことで、その目的の適成 も離れない、地に足の着いた議論に 件を整えることが必要かなどを問うて	も離れない、地に足の着いた議論に	件を整えることが必要かなどを問うて
いきました。玉地さんは、日ごろの	日ごろの す」という線引きはなく、結構身 を図るということを説明した。	を図るということを説明した。	なった。逆に、前回欠席していた生いく方向にすすんだ。それらについて	いく方向にすすんだ。それらについて
リハビリ患者の動きを説明し、状況 近なものなのではないか、と投げ	近なものなのではないか、と投げ		その後、実際に2組の漫才のビデオを (徒が、話に乗りにくそうだった。哲 深めていくということはなされなかっ	深めていくということはなされなかっ
によって身体の動きがどのように変 かけてみたが、16歳の若者に	かけてみたが、16歳の若者に	皆で見て、少人数のグループに分かれ	皆で見て、少人数のグループに分かれ 学者の理論を媒介にするというこ たが、「対話」 について考えるうえで	たが、「対話」について考えるうえで
わっていくか説明を交えながらも、	とって「老い」実感はまったくな	わっていくか説明を交えながらも、 とって「老い」実感はまったくな 「てそれぞれどこがどうおもしろかった と及び対話という形式をとることに の多くの重要な論点が出され、これま	と及び対話という形式をとることに	の多くの重要な論点が出され、これま
生徒の意見を受け止めようと忙しそ。さそうだった。	さそうだった。	か、なぜそれがおもしろいとおもった	か、なぜそれがおもしろいとおもった よって、他人の考えを受け取り、自 での授業以上に生徒間での意見の衝突	での授業以上に生徒間での意見の衝突
うでした。自分で動きながら、それ		かを話してもらった。最後に、各グルー	かを話してもらった。最後に、各グルー 分の考えを発信する地平を、少なか があり、活発に意見がだされた。	があり、活発に意見がだされた。
に耳を傾ける、不思議な授業風景		プで出た意見を簡単に発表してもらっ らず形成することができた。	らず形成することができた。	
だったと思います。		て、初回を終えた。		